

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 共愛学園前橋国際大学

1. 新設組織の概要 .....	2
(1) 新設組織の概要 .....	2
(2) 新設組織の特色 .....	2
2. 人材需要の社会的な動向等 .....	3
(1) 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析 .....	3
(2) 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析 .....	4
(3) 新設組織の主な学生募集地域 .....	7
(4) 既設組織の定員充足の状況 .....	10
3. 学生確保の見通し等 .....	12
(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 .....	12
① 既設組織における取組とその目標 .....	12
② 新設組織における取組とその目標 .....	14
③ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数 .....	15
(2) 競合校の状況分析 .....	16
① 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性 .....	16
② 競合校の入学志願動向等 .....	18
③ 新設組織において定員を充足できる根拠等 .....	19
④ 学生納付金等の金額設定の理由 .....	19
(3) 先行事例分析 .....	20
(4) 学生確保に関するアンケート調査 .....	20
(5) 人材需要に関するアンケート調査等 .....	24
4. 新設組織の定員設定の理由 .....	25

### 別 紙

【別紙1】 新設組織が置かれる都道府県への入学状況 .....	26
【別紙2の1】 既設学科等の収容定員の充足率 .....	27
【別紙2の2-2】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近5年間) .....	28
【別紙3】 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績 .....	29

## 1. 新設組織の概要

### (1) 新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
共愛学園前橋国際大学 デジタル共創学部 デジタル共創学科	100	400	群馬県前橋市小屋原町 1154 番 4

### (2) 新設組織の特色

デジタル共創学部は、「共愛＝共生の精神」という建学の精神のもと、本学がこれまで培ってきた「他者と協働するための知識・態度を醸成するための学び」と、「情報通信技術・デジタル技術をビジネス、環境、人々の生活に浸透させ、新たな価値を創造していくための学び」とを掛け合わせるにより、「デジタル技術についての見識を活かし、他者と共に Well-Being な社会を創造できる人材」を養成することを目的としている。

学びの特色として、1, 2 年次を中心に、本学の既存学部である国際社会学部において既に実施されている、共生のための知識・態度を身につける全学共通科目（外国語、共愛コア、Glocal 科目）を学部の垣根を超えて両学部の学生と一緒に学ぶとともに、DX の基礎となる数理・ICT・データサイエンス・AI の科目群（MIDA）や演習、キャリア科目といった学部共通基礎科目を学び「デジタル共創人材」の基礎を固める。

専門科目は、社会から高い評価を得ている本学の Active Learning や Problem Based Learning を多く取り入れた学びの専門科目群を複数のモジュール（Discipline Module）として構成し、興味関心やめざす方向性に合わせてモジュールを選択することによって専門性を深める「モジュール型カリキュラム」を採用する。共通領域となる「DX モジュール（工学関係）」は全員が履修し、それに加え、DX のための ICT の専門性を高める「ICT モジュール」（工学関係）、ビジネス領域の DX を学ぶ「マネジメントモジュール」（経済学関係）、食や環境、地域社会の DX を学ぶ「Well-Being モジュール」（家政関係）から 1 つのモジュールを選択、修得していく。こうした学びを土台として「Issue-Based Research Project PBL（卒業研究）」において社会や学術における課題を探究し、価値を共創できる人材に成長していくカリキュラムとしている。

なお、既存学部である国際社会学部国際社会学科（入学定員：299 名（3 年次編入 2 名）、収容定員：1,200 名）に設置している「情報・経営コース」を「経営コース」に名称変更し、学科全体の入学定員を 250 名（収容定員 1,004 名）に減員する予定である。

## 2. 人材需要の社会的な動向等

### (1) 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

本学が所在する前橋市はデジタル田園都市国家構想事業（以下、デジ田）タイプ3に（資料01）、群馬県と前橋市は合同の取り組みとしてタイプ2に選定されている（資料02）。前橋市は「デジタルグリーンシティ」をめざし、デジ田総合戦略として2026年にデジタル推進人材を230万人育成する目標を持つ。実際に市内ではデロイトトーマツグループやアクセンチュア(株)に代表されるスマートシティ推進企業が拠点を創設し（資料03, 04）、地域採用に意欲を示すなど、デジタル人材の雇用意欲は非常に高いことがうかがえる。また、群馬県の産業構成を見ると、フードテックやIoP (Internet of Plants) など Green Transformation（以下、GX）の中心を担う産業である食加工業が2位となっており（資料05）、そこにおいても人材の需要が見込まれる。さらに、群馬県庁には Digital Transformation（以下、DX）推進監とGX推進監が配置されたことに象徴されるように、地方のDX/GXの推進とそのための人材確保は喫緊の課題である（資料06）。

本学が所在する地域だけでなく、日本国内に目をむけても、教育未来創造会議第一次提言にて2030年に先端IT人材が54.4万人不足し、脱炭素化推進に人材を必要とする自治体が全体の2/3であると示され（資料、07）、経団連アンケートに基づく文部科学省試算では2024年度までに同加盟企業で約24万人のデジタル人材が不足するとされる。

以上の社会的背景を考慮し、本学では情報科学・情報工学に基づくデジタル技術の学びを基盤とし、さらに「デジタル技術を発展・深化させる学び（ICT領域）」、「デジタル技術でビジネスを中心とした様々な社会課題を解決する学び（マネジメント領域）」、「食や健康をデジタル技術で支える学び（Well-Being領域）」といった3領域における学びの選択肢を用意し、学生ひとり一人はそれぞれの分野の学びを深め、さらに他の学生や教員、企業等と協働することにより、複数の分野の知識を集約して課題の解決や価値の創造をめざす「デジタル時代の共創人材」を育成・排出することとしている。これにより、本学において重要なステークホルダーとなる群馬県や前橋市からは地域発展に、県内企業等からは人材確保に対する期待を大いに集めている（資料08, 09, 10, 11, 12）。

【資料01】 デジタル田園都市国家構想推進交付金の採択内示について（前橋市）

【資料02】 デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）の採択について（群馬県）

【資料03】 デロイト トーマツ、初の地域イノベーション拠点「MAEBASHI Social Innovation Hub」を前橋市に開設 | ニュースリリース | デロイト トーマツグループ (Web サイト)

【資料04】 アクセンチュア・アドバンスト・テクノロジーセンター \_ アクセンチュア (Web サイト)

【資料05】 令和3年度\_県民経済計算\_群馬県（概要版） 抜粋

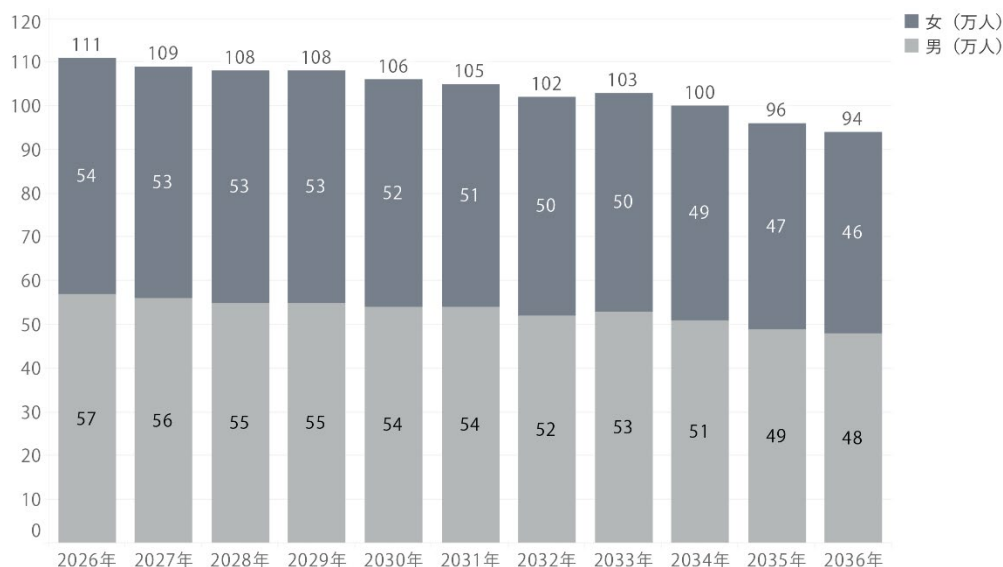
【資料06】 新・ぐんまDX加速化プログラムの概要（2024年3月策定）

- 【資料 07】教育未来創造会議第一次提言（概要版）
- 【資料 08】新学部設置に係る意見書（群馬県知事）
- 【資料 09】新学部設置に係る要望書（群馬県教育委員会）
- 【資料 10】新学部設置に係る意見書（前橋市市長）
- 【資料 11】新学部設置に係る要望書（前橋商工会議所）
- 【資料 12】新学部設置に係る要望書（群馬経済同友会）

## (2) 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（令和 5 年推計）」によると、デジタル共創学部の開設予定である令和 8（2026）年における全国の 18 歳の推計人口（図表 2-2-1）は、111 万人（男 57 万人、女 54 万人）であり、その後数年は緩やかではあるが減少の一途をたどり、10 年後の令和 17（2035）年には 96 万人（男 49 万人、女 47 万人）と推計され、全国的には 10 年間で 15 万人減少の見込みとされている。

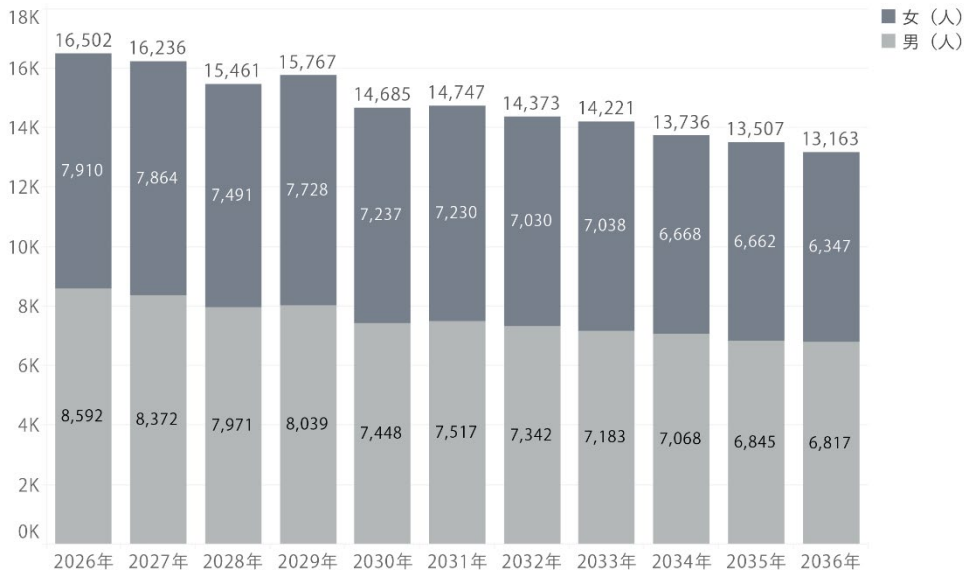
図表 2-2-1：全国 18 歳人口推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（令和 5 年推計）」をもとに共愛学園前橋国際大学作成

また、本学が所在する群馬県の令和 8（2026）年における 18 歳人口の推計人口（図表 2-2-2）は、群馬県年齢別人口統計調査結果（令和 5 年推計）によると 16,502 人（男 8,592 人、女 7,910 人）であり、その後多少の増減はあるが減少となり、10 年後の令和 17（2035）年には 13,507 人（男 6,845 人、女 6,662 人）と推計され、10 年間で 2,995 人減少の見込みとされている。

図表 2-2-2：群馬県 18 歳人口推計

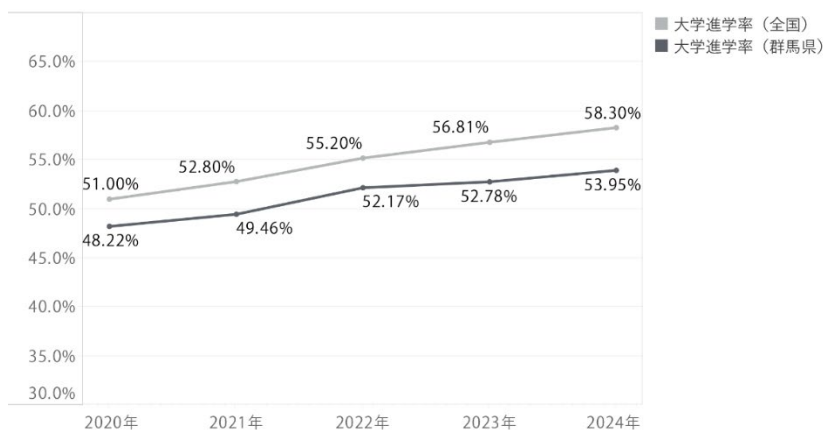


出典：群馬県年齢別人口統計調査結果（令和 5 年推計）をもとに共愛学園前橋国際大学作成※2034 年以降は本結果をもとに独自推計

一方で、18 歳人口の全国における大学進学率は、過去 5 年間で毎年上昇しており、令和 6（2024）年度では、大学への進学率（大学進学者／高校卒業者）は 58.30%と、5 年間で 7.3 ポイント増の伸び率を示している。群馬県における大学進学率は、全国ほどではないが、過去 5 年間で 5.73 ポイント上昇しており、進学意欲の高まりがうかがえる（図表 2-2-3）。18 歳人口の減少のスピードを完全に補うほどの上昇ではないものの、一定数の進学者数を引き続き見込むことができるといえる。

群馬県においては、まず全国平均並みの大学等進学率を目指し、高大連携事業等を通じて大学への進学・学修に関心が高まるよう、高校生に対して学びの橋渡しを行っていく。具体的には、協定高校と行っている探究学習支援の延長となるような探究活動重視型の総合型選抜の開発、群馬県男女共同参画センターと連携し主に女子生徒向けに分野理解を促進する出張授業の検討、さらには初等教育の段階での小学生対象プログラミング講座の実施などである。

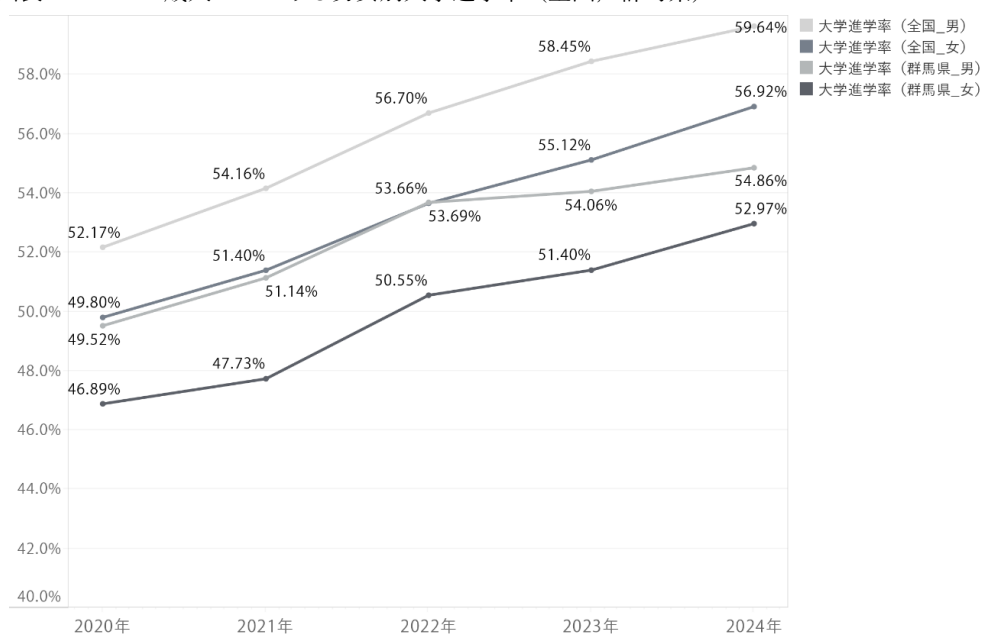
図表 2-2-3：大学進学率（全国，群馬県）



出典：学校基本調査（令和 2 年～令和 6 年度）「都道府県別 状況別卒業生数/大学・短期大学等への進学者数」をもとに共愛学園前橋国際大学作成

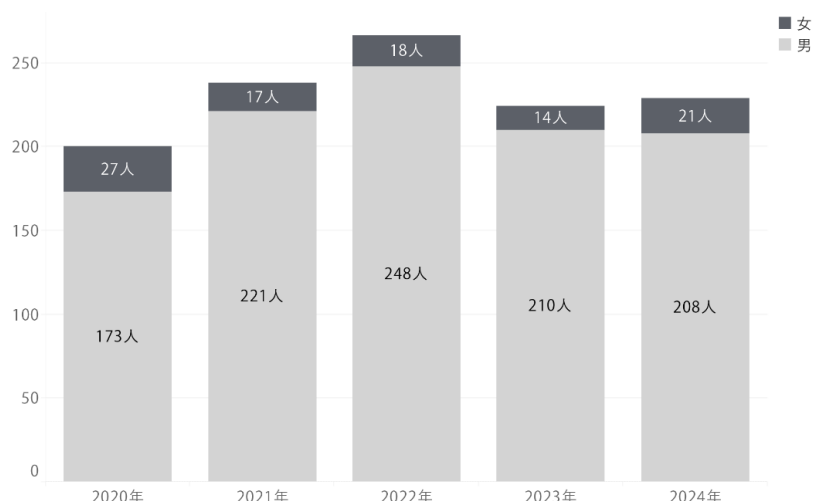
また、過去 5 年間の 18 歳人口の男女別大学進学率（図表 2-2-4）をみると、令和 6（2024）年度における全国での男子生徒の大学進学率は 59.64% となっており、5 年間で 7.47 ポイント増、女子生徒の大学進学率は 56.92% で、5 年間で 7.12 ポイント増を示している。群馬県においても、男子生徒の大学進学率は、令和 6（2024）年度に 54.86% で、5.34 ポイント増、女子生徒の大学進学率は 52.97% で、6.08 ポイント増と着実に大学への進学率を伸ばしている。ところが、群馬県における工学分野（工業・情報）の大学志願者数を見ると（図表 2-2-5）、女子生徒においては、令和 6（2024）年度で工業・情報志願者数比率で 9.17% のみとなっており、男子生徒に比べ大幅に少ないことがわかる。本学が構想する「デジタル共創学部」は「情報」分野の学びを土台としながら、「ICT」・「経営」・「Well-Being」といった幅広い分野の学びを修めることができ、従来の「工学・情報」のイメージを払拭し、“女子生徒の学びやすさ”を提供することも目的としている。群馬県内の女子志願者数の増加を目指し、工学、とりわけ「情報」分野を基盤として発展的な学びを提供する高大連携事業を計画している。これは、令和 5（2023）年度に採択された「大学・高専機能強化支援事業」の学部新設計画にも掲げ、採択時に選定委員会の審査において事業計画の多数の項目で「特筆すべき内容がある」と評価を受けた項目であることも付記する。

図表 2-2-4：18 歳人口における男女別大学進学率（全国，群馬県）



出典：学校基本調査（令和 2 年～令和 6 年度）「都道府県別大学・短期大学等への進学者数」をもとに共愛学園前橋国際大学作成

図表 2-2-5：男女別工学系（工業・情報）志願者数（群馬県）



出典：学校基本調査（令和2年～令和6年度）「都道府県別 学科別大学(学部)・短期大学(本科)等への入学志願者数」をもとに共愛学園前橋国際大学作成

### (3) 新設組織の主な学生募集地域

デジタル共創学部の主な学生募集地域は、本学が所在する群馬県並びに隣接県（栃木県、埼玉県、新潟県、長野県）を想定している。

まずは、群馬県に所在する高校の卒業者の過去5年間における都道府県別進学状況（図表 2-3-1）を見ると、群馬県においては県内に留まる進学者が多数を占める一方で、東京都をはじめとした首都圏（東京都、埼玉県、神奈川県）への進学者が多いことがわかる。とりわけ隣接県である埼玉県への進学者が東京都に次ぐ進学者数となっている。今後、埼玉県内や隣接県に学部をもつ大学において、情報・データサイエンス系統の学びを行う学部等の新設・再編が本学部の開設と同時期に行われることが予定されており、群馬県からの人口流出を防ぐためにも県内に新たな情報・データサイエンス系統の学びを設置する必要があると考える。

図表 2-3-1：群馬県所在高校\_都道府県別進学者数（大学）

大学所在地	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
群馬県	2,856人	2,863人	3,125人	2,944人	2,978人
東京都	2,325人	2,173人	2,251人	2,199人	2,051人
埼玉県	1,392人	1,299人	1,325人	1,266人	1,168人
神奈川県	680人	626人	606人	585人	533人
千葉県	350人	339人	362人	372人	362人
栃木県	307人	290人	252人	284人	266人
新潟県	200人	202人	177人	163人	186人
京都府	136人	149人	136人	122人	114人
宮城県	125人	114人	134人	131人	117人
茨城県	117人	112人	125人	122人	102人
石川県	102人	92人	93人	121人	112人
長野県	111人	99人	94人	85人	85人

出典：学校基本調査（令和2年～令和6年度）「16\_出身高校の所在地別 入学者数」をもとに共愛学園前橋国際大学作成

次に、過去5年間における群馬県に所在する大学への都道府県別の高校卒業者の進学状況（図表2-3-2）を見ると、隣接県である埼玉県、栃木県、長野県の3県が上位3都道府県（群馬県を除く）となっており、少し順位は下がるが、新潟県も6位（群馬県除く）となっている。

図表 2-3-2：群馬県所在大学\_都道府県別高校卒業生進学者数（トップ10）

高校所在地	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
群馬県	2,856人	2,863人	3,125人	2,944人	2,978人
埼玉県	631人	665人	684人	607人	476人
栃木県	457人	481人	463人	445人	430人
長野県	327人	338人	312人	351人	299人
東京都	293人	284人	267人	268人	175人
茨城県	243人	259人	222人	231人	196人
新潟県	203人	205人	200人	182人	180人
千葉県	142人	105人	142人	120人	126人
静岡県	125人	127人	117人	132人	108人
神奈川県	154人	115人	123人	83人	76人

出典：学校基本調査（令和2年～令和6年度）「16\_出身高校の所在地県別 入学者数」をもとに共愛学園前橋国際大学作成

さらに、群馬県への入学率（群馬県入学者／高校所在県進学者）を見ると（図表2-3-3）、隣接4県が、上位4県（群馬県除く）となるなど、群馬県へ入学を促す土壌があることがわかる。特に埼玉県においては、他県に比べ人数が多く埼玉県北部を今後の広報ターゲットとすることで、群馬県から埼玉県への進学者数に近づけ、流入・流出の差を極力近づけることを考えている。その他3県についても、入学率を0.2ポイント上昇させることを目標にすることで、50名強の進学者増を見込むことができる。

図表 2-3-3：群馬県所在大学\_都道府県別県内入学率（トップ7）

高校所在地		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
群馬県	進学者数	9,332人	8,971人	9,316人	9,034人	8,713人
	県内入学者数	2,856人	2,863人	3,125人	2,944人	2,978人
	県内入学率	30.6%	31.9%	33.5%	32.6%	34.2%
栃木県	進学者数	9,155人	9,063人	9,096人	9,224人	8,991人
	県内入学者数	457人	481人	463人	445人	430人
	県内入学率	5.0%	5.3%	5.1%	4.8%	4.8%
長野県	進学者数	9,382人	9,269人	9,520人	9,525人	9,451人
	県内入学者数	327人	338人	312人	351人	299人
	県内入学率	3.5%	3.6%	3.3%	3.7%	3.2%
新潟県	進学者数	9,400人	8,698人	9,100人	9,166人	8,842人
	県内入学者数	203人	205人	200人	182人	180人
	県内入学率	2.2%	2.4%	2.2%	2.0%	2.0%
埼玉県	進学者数	35,148人	35,056人	35,441人	35,173人	34,803人
	県内入学者数	631人	665人	684人	607人	476人
	県内入学率	1.8%	1.9%	1.9%	1.7%	1.4%
岩手県	進学者数	4,681人	4,460人	4,419人	4,368人	4,370人
	県内入学者数	81人	67人	60人	61人	92人
	県内入学率	1.7%	1.5%	1.4%	1.4%	2.1%
福島県	進学者数	7,283人	7,215人	7,198人	6,986人	6,873人
	県内入学者数	112人	111人	116人	98人	89人
	県内入学率	1.5%	1.5%	1.6%	1.4%	1.3%

出典：学校基本調査（令和2年～令和6年度）「出身高校の所在地県別 入学者数」をもとに共愛学園前橋国際大学作成

続いて、本学の過去5年間の都道府県別入学状況を見ると（図表2-3-4）、9割を超える学生が群馬県内から入学していることがわかる。そのほか隣接4県や、人数としては少ないが茨城県からの入学者が毎年継続的に入学している。既存学部は、群馬県内において国公立大学に次ぐ進学先として、県内の高校生から多くの支持を集めるとともに、県内進学者の受け皿としての機能を務めてきた。今後デジタル共創学部の開設によって、さらなる県内進学希望者の学びの多様性を創出し、進学の実選択肢が県内に無く（または少なく）県外に流出せざるをえなかった者の進学先候補としての役割を担うことになる。また、今後ターゲットとする予定である埼玉県をはじめとする隣接県からの本学への入学者はまだまだ少数である。大学進学希望者のさらなる進学先候補をなすために、隣接県の対象者に向けた広報等を行い、本学の存在とともに新たに設置するデジタル共創学部の認知をすすめることが重要と考えている。

図表 2-3-4：共愛学園前橋国際大学 都道府県別入学状況（トップ6）

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
群馬	入学者数	298人	299人	301人	280人	298人
	共愛学園前橋国際大学	91.98%	89.79%	93.19%	90.61%	91.98%
栃木	入学者数	9人	7人	4人	7人	9人
	共愛学園前橋国際大学	2.78%	2.10%	1.24%	2.27%	2.78%
埼玉	入学者数	4人	11人	6人	6人	4人
	共愛学園前橋国際大学	1.23%	3.30%	1.86%	1.94%	1.23%
茨城	入学者数	4人		2人	3人	4人
	共愛学園前橋国際大学	1.23%		0.62%	0.97%	1.23%
長野	入学者数	4人	1人	2人	2人	4人
	共愛学園前橋国際大学	1.23%	0.30%	0.62%	0.65%	1.23%
新潟	入学者数	1人	2人	1人	2人	1人
	共愛学園前橋国際大学	0.31%	0.60%	0.31%	0.65%	0.31%

出典：共愛学園前橋国際大学 入試データ（令和2年～令和6年度）をもとに作成

デジタル共創学部の学びが競合する群馬県内の2大学（群馬大学情報学部、前橋工科大学工学部）の各都道府県からの入学状況を見ると（図表2-3-5、図表2-3-6）、本学とほぼ同様の県からの入学状況となっているが、群馬県内からの進学者割合は低い。このことから、本学のデジタル共創学部が、情報分野における群馬県内の進学希望者の受け皿になり得ると考えられると同時に、隣接県からの入学者の受け皿ともなれる可能性があると考えられる。また、両大学とも入学定員並びに収容定員充足率は100%を超えている状況である。

図表 2-3-5：群馬大学情報学部 都道府県別入学状況（トップ10）

高校所在地		2021年	2022年	2023年	2024年
群馬	群大_入学者	78人	69人	61人	67人
	群大_入学者割合	42.62%	40.35%	34.08%	38.51%
埼玉	群大_入学者	20人	21人	27人	17人
	群大_入学者割合	10.93%	12.28%	15.08%	9.77%
栃木	群大_入学者	11人	14人	13人	13人
	群大_入学者割合	6.01%	8.19%	7.26%	7.47%
長野	群大_入学者	12人	9人	14人	15人
	群大_入学者割合	6.56%	5.26%	7.82%	8.62%
茨城	群大_入学者	10人	6人	8人	7人
	群大_入学者割合	5.46%	3.51%	4.47%	4.02%
東京	群大_入学者	6人	6人	5人	3人
	群大_入学者割合	3.28%	3.51%	2.79%	1.72%
新潟	群大_入学者	4人	8人	3人	4人
	群大_入学者割合	2.19%	4.68%	1.68%	2.30%
岩手	群大_入学者	3人	2人	5人	4人
	群大_入学者割合	1.64%	1.17%	2.79%	2.30%
静岡	群大_入学者	4人	1人	4人	5人
	群大_入学者割合	2.19%	0.58%	2.23%	2.87%
千葉	群大_入学者	4人	2人	1人	5人
	群大_入学者割合	2.19%	1.17%	0.56%	2.87%

出典：大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/prtr/table.html>) をもとに共愛学園前橋国際大学作成

図表 2-3-6：前橋工科大学工学部 都道府県別入学状況（トップ10）

高校所在地		2022年	2023年	2024年
群馬	前工大_入学者数	77人	75人	78人
	前工大_入学者割合	25.00%	25.77%	25.41%
埼玉	前工大_入学者数	28人	18人	23人
	前工大_入学者割合	9.09%	6.19%	7.49%
栃木	前工大_入学者数	30人	20人	32人
	前工大_入学者割合	9.74%	6.87%	10.42%
長野	前工大_入学者数	19人	14人	19人
	前工大_入学者割合	6.17%	4.81%	6.19%
茨城	前工大_入学者数	25人	13人	15人
	前工大_入学者割合	8.12%	4.47%	4.89%
新潟	前工大_入学者数	17人	14人	10人
	前工大_入学者割合	5.52%	4.81%	3.26%
東京	前工大_入学者数	9人	5人	7人
	前工大_入学者割合	2.92%	1.72%	2.28%
岩手	前工大_入学者数	10人	8人	9人
	前工大_入学者割合	3.25%	2.75%	2.93%
静岡	前工大_入学者数	20人	25人	22人
	前工大_入学者割合	6.49%	8.59%	7.17%
富山	前工大_入学者数	6人	10人	9人
	前工大_入学者割合	1.95%	3.44%	2.93%

出典：大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/prtr/table.html>) をもとに共愛学園前橋国際大学作成

#### 【添付データ】

- ・新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙1）

#### (4) 既設組織の定員充足の状況

令和6（2024）年度5月1日現在における共愛学園前橋国際大学の在籍者数並びに収容定員充足率は、以下のとおりである。

学校名	学部学科専攻名	収容定員	現員	収容定員充足率
共愛学園前橋国際大学	国際社会学部国際社会学科	1,200 人	1,292 人	107%
	国際社会専攻	1,000 人	1,152 人	115%
	地域児童教育専攻	200 人	140 人	70%
共愛学園前橋国際大学 短期大学部	生活学科	200 人	130 人	65%
	こども学専攻	100 人	41 人	41%
	栄養専攻	100 人	89 人	89%

共愛学園前橋国際大学短期大学部は、令和 8（2026）年度入試から学生募集の停止を予定している。こども学専攻で養成していた保育士並びに幼稚園教諭については、共愛学園前橋国際大学 地域児童教育専攻に「幼児教育・保育コース」をあらたに開設し学びを継続していくことを予定している。これにより、地域児童教育専攻は、従来の小学校教員養成を目的とした「児童教育コース(学校教育コースに名称変更予定)」と合わせて、保育士並びに幼稚園教諭養成を目的とした「幼児教育・保育コース」の 2 コース制となり、専攻の定員を変えることなく募集を行うことで、現状の地域児童教育専攻の入学人数 30 人程度にこども学専攻の近年の入学人数 20 人程度を確保することにより、同専攻の収容定員充足率の改善を見込んでいる。また、デジタル共創学部の開設に合わせて、国際社会学部の入学定員を 299 人から 250 人に減員予定としている。

共愛学園前橋国際大学短期大学部は、令和 3（2021）年度の設置者変更以来、経常収支差額において支出超過が続いていたが、令和 8（2026）年度末の閉学後（卒業延期者がいた場合は延期の場合有）は、この支出超過の負担がなくなるため、法人全体における経常収支差額の収支改善を見込んでいる。なお、短期大学部の教員については、大学に異動する 5 名を除き、定年年齢となるため退職となる。職員についてはデジタル共創学部開設に伴い業務増となるため原則大学に全員異動を予定している。大学においては、経常収支差額の収入超過が続いており、異動者を受け入れても完成年度には安定した財務状況となると見込んでいる。

続いて、令和 6（2024）年度入試における選抜別の入学志願と入学者の状況は以下のとおりである。高校生の年内入試志向の高まりによって、共愛学園前橋国際大学においては、学校推薦型選抜の比率が高くなってきており、一般選抜では、募集人数に近い入学人数となっているが、共通テスト利用型選抜の入学人数の減少が進んでいる。共愛学園前橋国際大学短期大学部では、4 年制大学への進学志向の高まりにより、ここ数年入学定員充足率は 60% 超の数値で推移している。特に年内入試となる総合型選抜と学校推薦型選抜（特待生入試含）が志願者の大半を占め、大学と比較して高い割合となっている。

○共愛学園前橋国際大学 令和 6 年度入試状況

(人)

専攻	入試区分	募集人数	志願者数	合格者数	入学者数
国際社会専攻	総合型選抜	14	27	12	12
	学校推薦型選抜	100	191	184	166
	一般選抜	55	148	129	55
	共通テスト利用型選抜	55	174	148	30
	特待生試験	15	106	43	8
	グローバルオーナーズ	10	25	14	2

	外国人留学生	若干名	2	2	2
	社会人	若干名	1	1	1
	<b>計</b>	<b>249</b>	<b>674</b>	<b>533</b>	<b>276</b>
地域児童教育専攻	総合型選抜	若干名	2	1	1
	学校推薦型選抜	10	21	20	18
	一般選抜	15	21	21	11
	共通テスト利用型選抜	20	38	32	1
	特待生試験	5	35	14	1
	社会人	若干名	1	1	1
	<b>計</b>	<b>50</b>	<b>118</b>	<b>89</b>	<b>33</b>
<b>合計</b>	<b>299</b>	<b>792</b>	<b>622</b>	<b>309</b>	

○共愛学園前橋国際大学短期大学部 令和6年度入試状況 (人)

専攻	入試区分	募集人数	志願者数	合格者数	入学者数
こども学専攻	総合型選抜	10	1	1	1
	学校推薦型選抜	35	17	17	17
	一般選抜	5	1	1	1
	特待生試験	若干名	1	1	1
	社会人	若干名	1	1	1
	<b>計</b>	<b>50</b>	<b>21</b>	<b>21</b>	<b>21</b>
栄養専攻	総合型選抜	10	6	6	5
	学校推薦型選抜	35	30	30	30
	一般選抜	5	4	4	4
	特待生試験	若干名	7	7	7
	社会人	若干名	3	3	2
	<b>計</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>48</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>	<b>71</b>	<b>71</b>	<b>69</b>	

【添付データ】

- ・既設学科等の収容定員の充足状況（別紙2の1）
- ・既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）（別紙2の2-1）

### 3. 学生確保の見通し等

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

① 既設組織における取組とその目標

■ オープンキャンパス

本学の学びや学生の様子、学内の雰囲気などを受験希望者に知ってもらう機会として、オープンキャンパスを毎年5～6回程度開催している。その特徴は、学生が主体的にオープンキャンパスを実施していることである。学生自らが企画立案を行い、受験希望者へ本学の良さや学びの特徴などの伝え方、当日のタイムテーブル、学生によるコース紹介プレゼン、誘導方法等の詳細な動きまで学生スタッフ同士が議論のうえ運営を行っている。このホスピタリティの高い学生主体のオープ

ンキャンパスにより、例年、受験対象者に対して受験率 70%以上、入学率 40%以上を維持しており、令和 6（2024）年度実績は、入学定員に対して 77%となる 232 名が入学している。

また補足となるが、学生たちの姿が受験希望者のロールモデルとなることで、入学者の獲得だけでなく、入学後に率先してオープンキャンパススタッフとして参加を希望する学生が多数いることにもつながっており、受験率や入学率の高さに貢献していると考えられる。

#### ■ 大学案内配布

大学のホームページや外部業者のサイトにおいて資料請求フォームを設置し、資料の請求があった際にパンフレット等の資料を送付している。また、オープンキャンパス等の学内イベントや、学外で開催される進学相談会・ガイダンスにおいてもパンフレットを配布し、本学の特徴などを言語化したものとしてアピールを行っている。

この結果、例年 6,000 人以上に大学案内を配布し、約 7%の受験率、4.5%前後の入学率となっている。率としては低いですが、配布数が多いため入学者の 90%以上に届いている。

#### ■ 高校訪問

本学の募集担当職員が県内、隣接県、東北地方等の高校を中心に訪問し、本学の説明を行っている。主に進路指導教員に対して、前期は、大学案内等の資料を届けると同時に、当該高校からの入学生の近況などの報告のほか、前年度の入試との変更点などの紹介を行っている。後期は、受験ガイド等の資料を届けると同時に受験希望者の情報などを収集するなど、選抜試験にむけ活動を行っている

高校訪問を行った高校からの受験率は 95.6%と非常に高いことから、進路指導教員へのアプローチだけでなく、個々の生徒へのアプローチ等を通して、高校訪問校からの生徒をオープンキャンパス来場へ結びつけることにより、受験者 260 人以上の確保に結びつけることが重要である。

#### ■ 進学相談会・ガイダンス

群馬県内で行われる進学相談会・ガイダンスや、進学実績のある高校が参加する県外の相談会・ガイダンス等を中心に参加している。特に近年は、県外で開催される相談会・ガイダンスの参加回数を増やしており、より多くの高校生と接触を図り、対象者に直接大学の周知・アピールを行っている。

受験対象者に直接アピールできるため、例年受験率と入学率が 30%前後と数値が近く、高い値を示している。今後はさらに新学部に興味がある対象者への接触機会を増やす必要がある。

#### ■ SNS

本学の SNS は、主に Instagram と X (エックス)、LINE としている。Instagram は、高校生を中心に広く本学の情報を周知するため、大学開校日には 1 回以上の投稿を行っており、在学生の情報を主なものとしている。X (エックス) は大学のニュース等の発信の場であり、LINE は、オープンキャンパスの予約窓口の機能のほか、月 2～3 回イベント等の情報を送信し、登録者にピンポイントで周知を行っている。SNS の活用は、ステークホルダーごとのリーチとなるよう発信を行っている。

Instagram や X (エックス) に関しては、不特定多数へ発信するための広報ツールであり、入学者を見込むことは困難であると考え、数値の算定に使用していない。LINE に関しては、接触時の登録が多く比較的本学への関心が高い層へのアプローチであり、ある程度登録者の情報が絞れるため、受験率や入学率は LINE の登録者をもとに算出している。

LINE は前述の登録者のため、受験率は 30%超、入学率は 30%弱が見込まれる結果となっている。

#### 【添付データ】

- ・既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績 (別紙 3)

#### ② 新設組織における取組とその目標

デジタル共創学部では、上記の取り組みを引き続き行い、特に受験対象者との接触機会を増やすため、高校訪問や進学相談会・ガイダンス等への参加を増やす方針である。そのため、広報担当者を 1 名増員するため組織体制を見直すとともに、効率的にアプローチを行うための計画を早期に行う予定としている。これにより高校訪問や進学相談会・ガイダンスへの参加数をそれぞれ 30～40 程度増やし、受験対象者の純増を見込んでいく。その後、受験対象者に対して効果的に入学につながると思われるオープンキャンパスへの来場を促し来場者数の純増にもつなげていく。合わせて、大学ホームページ等の紹介のほか、特に SNS への登録促進を積極的に行い持続的に受験対象者とのつながりを保っていく予定である。

このほかに、群馬県教育委員会主導による県内 DX ハイスクール校 (全採択校 22 校) とコンソーシアム (座長：共愛学園前橋国際大学学長 大森昭生就任予定) を組み、高校でのデジタル活用を進めると同時に、本学の教員派遣等による出前授業や、高校生を本学に招いての体験授業のほか連携教育プログラムの開発等を行い、工学分野、特に情報分野における興味関心を喚起し、県内での進学意欲促進につなげていく。特に女子生徒へは特別プログラムを提供・充実させるなどして、まずは工学・情報分野への興味関心を広げ、さらに進学促進となるよう活動を行っていく予定である。このことにより、今まで本学が進学先候補とならなかった生徒層へターゲットを広げていき、DX ハイスクール校の各校から 1～2 名程度進学者を獲得し、20～30 名程度の学生確保を目標としていく計画である。

③ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

前述した既存学部における学生確保の各取り組み等を踏まえて、見込まれる具体的な入学者数の見込みは以下のとおりである。

■ 大学案内配布

受験対象者を 2,050 人（既存学部令和 6 年度入試実績 6,132 人の 1/3（※新学部  
の入学定員が既存学部の 1/3 のため。以下同様。））とし、7.2%の 150 人が受験、  
4.6%が入学すると仮定すると 95 人の入学が見込まれる。

■ 高校訪問

広報担当者 1 名を増員することにより、高校訪問数を令和 6 年度入試時実績か  
ら 40 校（20%）程度増やし、受験対象者の目標を 266 人（既存学部令和 6 年度入  
試実績 799 人の 1/3）から 53 人増（20%）の 320 人とし、令和 6 年度の実績値か  
ら受験対象者目標数の 96%にあたる 307 人が受験、40%が入学すると仮定すると  
128 人の入学が見込まれる。

■ 進学相談会・ガイダンス

広報担当者 1 名を増員することにより、進学相談会・ガイダンス参加数を令和  
6 年度入試時実績から 30 回（28%）程度増やし、受験対象者の目標を 136 人（既  
存学部令和 6 年度入試実績 410 人の 1/3）から 38 人増（28%）の 174 人とし、令  
和 6 年度の実績値から受験対象者目標数の 31%にあたる 54 人が受験、28.8%が入  
学すると仮定すると 50 人の入学が見込まれる。

■ オープンキャンパス

広報担当者 1 名の増員により、高校訪問並びに進学相談会・ガイダンスの実績  
をそれぞれ下記の回数に増やすことにより、従来実績からの受験対象者が 180 人  
（既存学部令和 6 年度入試実績 545 人の 1/3）に加え、高校訪問数増からの見込  
み数 33 人（増加数 53 人のうち 68%（オープンキャンパス受験対象者 545 人／高  
校訪問受験対象者 799 人））及び進学相談会・ガイダンス数増からの見込み数 38  
人（オープンキャンパス受験対象者 545 人／進学相談会・ガイダンス受験対象者  
410 人 100%を超えているため 100%と仮定）の 251 人（40%増）が来場すると  
し、令和 6 年度の実績値から受験対象者目標数の 75%の 188 人が受験、43%が入  
学すると仮定すると 108 人の入学が見込まれる。

■ SNS

オープンキャンパス来場者数の増加（40%増）を見込み、令和 6 年度の実績値の  
受験対象者 210 人（既存学部令和 6 年度入試実績 641 人の 1/3）に 84 人（40%

増)を加えた294人とし、令和6年度の実績値から受験対象者目標数の35.4%の104人が受験、28.7%が入学すると仮定すると84人の入学が見込まれる。

#### ■ DXハイスクール校とのコンソーシアム連携

群馬県内のDXハイスクールコンソーシアム校(22校)から、あらたなターゲット層として、各校2~3名の受験者として計50名、入学者30名程度を見込んでいる。

上記の取り組みごとの見込み者数はかなりの重複があると思われるが、志願へ結びつく確率の高いオープンキャンパス来場者確保のため、高校訪問数や進学相談会・ガイダンスへの参加回数を目標値まで確実に増やすことが重要であると考えます。

また、新たな層の獲得策として、DXハイスクールコンソーシアムへの参加により、対象高校の生徒に、探究学習支援や出張授業、特別教育プログラムの提供等を通じて、新学部への学びの関心を高めてもらうと同時に、オープンキャンパスへの来場を促す取り組みを行う予定である。

## (2) 競合校の状況分析

### ① 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

#### ア 競合校の選定理由

デジタル共創学部における学問分野(学校基本調査の学科系統分類表の中分類における「電気通信工学関係」・「経営工学関係」・「その他」)と同系統の学部をもつ大学を、主な学生募集地域である群馬県内で見ると、私立大学は無く、群馬大学情報学部(国立)と前橋工科大学工学部(公立)のみである。学力層は本学のターゲット層より、いささか高い層であるが、本学は群馬県内の国公立大学への進学が叶わなかった高校生の第二の進学先となることが多いことなどを踏まえ、この県内競合2大学(学部)を設定している。

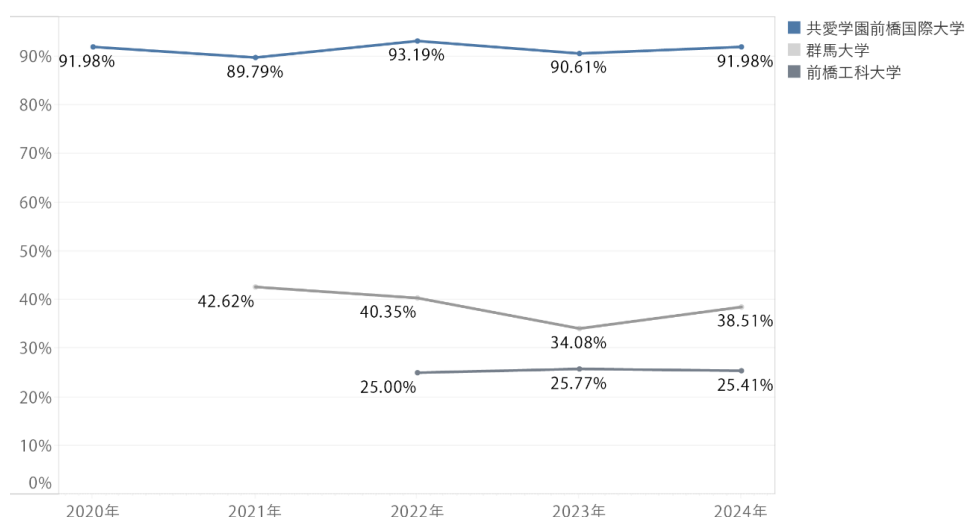
すでに設置されている同系統の学部をもつ関東の私立大学に目を向けると、文教大学情報学部(神奈川県茅ヶ崎市)、明治学院大学情報数理学部(神奈川県横浜市)、立正大学データサイエンス学部(埼玉県熊谷市)などが挙げられる。さらに、本学部の開設年度と同じく設置・改組される見込みが、青山学院大学統計・データサイエンス学部(仮称)や芝浦工業大学システム理工学部の課程制移行である。明治学院大学情報数理学部は開設1年目であること、青山学院大学計・データサイエンス学部(仮称)や芝浦工業大学課程制移行後のシステム理工学部に関しては開設前でデータがないことから、今後動向を注視することとして、以降の競合校分析は、すでに経年のデータがある文教大学情報学部と立正大学データサイエンス学部の私大競合2大学(学部)を設定している。

## イ 競合校との比較分析

本学の既存学部である国際社会学部は、多くの科目が一方的な講義形式だけでなくアクティブ・ラーニングやフィールド・ワーク等を積極的に取り入れ、大学で得た「知」を実践・活用する場を地域との連携等で多数提供してきており、高等教育機関の中でも高い評価をいただいているところである。これらの本学の特徴とも言える取り組みや教育理念・方法等はデジタル共創学部においても、同様に引き継いでいくこととしている。また、地域や企業等との連携科目を多数用意するだけでなく、「デジタル共創研究センター」の設置により、教員の研究支援体制を充実させ、さらに受託研究や共同研究等にも学生に積極的に関わりを持たせ、実践・活用する場を今以上に提供していくこととしている。なお、1年次から3年次まで、「キャリア・プランニングⅠ～Ⅳ」という科目を配置し、キャリアへの関心を知識としてしっかり高めると同時に、インターンシップや連携科目等で在学時から企業等との関りを多く持たせ、就職活動時には専門支援員による直接支援等に繋げていく体制はデジタル共創学部でも引き続き行う予定である。以上のようにより地域と密接に連携した学びや丁寧なキャリアへの取り組みを提供してきたことで、群馬県内において国公立に次ぐ進学先候補としての地位を確立し、群馬県内からの学生の確保を行ってきたところである。

ここで県内競合2大学（学部）における群馬県に所在する高校からの入学割合を本学と比べると著しく低く（図表3-2-1）、群馬県の高校生の進学先の受け皿とは言えない状況といえる。今後の入試においても、群馬県内の協定高校を対象とした「探究活動重視型の総合型選抜」の開発といった新たな入試の開発を積極的に行うことを予定しており、県内高校生の進学への選択肢が増えることが見込まれる。以上のことから、群馬県内の高校生の多様な進学先確保のため、デジタル共創学部の開設は重要であると考えられる。

図表 3-2-1：群馬県に所在する高校からの入学割合



出典：大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/prtr/table.html>)をもとに共愛学園前橋国際大学作成

私大競合2大学（学部）については、公表情報として詳細なデータが公開されていないため、群馬県に所在する高校からの入学についての分析は割愛する。

## ② 競合校の入学志願動向等

県内競合2大学（学部）の志願倍率をみると（図表3-2-2）、群馬大学においては3倍から4倍、前橋工科大学は3倍から5倍強と堅調に推移しており、進学希望者にとって狭き門となっている。また、女子の志願者比率も2～3割程度と低く、女子生徒の獲得が難しい状況がわかる。

図表3-2-2：県内競合2大学（学部）の志願・入学状況

大学名	学部名	学科名	2021年	2022年	2023年	2024年				
群馬大学	情報学部	情報学科	入学定員	170人	170人	170人	170人			
			志願者計	640人	613人	732人	542人			
			志願者（女）	207人	191人	222人	175人			
			志願者（男）	433人	422人	510人	367人			
			入学者計	183人	171人	179人	174人			
			入学者計（女）	68人	56人	54人	69人			
			入学者計（男）	115人	115人	125人	105人			
			志願倍率	376.47%	360.59%	430.59%	318.82%			
			入学定員充足率	107.65%	100.59%	105.29%	102.35%			
			女子比率（志願者）	32.34%	31.16%	30.33%	32.29%			
			女子比率（入学者）	37.16%	32.75%	30.17%	39.66%			
			前橋工科大学	工学部	情報・生命工学群	入学定員		132人	132人	132人
						志願者計		481人	727人	727人
志願者（女）		86人				132人	149人			
志願者（男）		395人				595人	578人			
入学者計		157人				139人	161人			
入学者計（女）		30人				32人	33人			
入学者計（男）		127人				107人	128人			
志願倍率		364.39%				550.76%	550.76%			
入学定員充足率		118.94%				105.30%	121.97%			
女子比率（志願者）		17.88%				18.16%	20.50%			
女子比率（入学者）		19.11%				23.02%	20.50%			

出典：大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」（<https://portal.niad.ac.jp/prtr/table.html>）をもとに共愛学園前橋国際大学作成

私大競合2大学（学部）についての入学状況をみると（図3-2-3）、文教大学情報学部においては、入学定員充足率を満たしているが、立正大学データサイエンス学部においては、入学定員充足率の下降傾向がみとれる。なお、公表情報として詳細なデータが公開されておらず、各大学のホームページから入手できる一般的な情報のみで作成している。

図表3-2-3：私大競合2大学（学部）の入学状況

大学名	学部名	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
文教大学	情報学部	入学定員	285人	285人	285人	285人
		志願者	非公開	非公開	非公開	非公開
		合格者	非公開	非公開	非公開	非公開
		入学者	311人	309人	315人	311人
		志願倍率	非公開	非公開	非公開	非公開
		入学定員充足率	109.12%	108.42%	110.53%	109.12%
		立正大学	データサイエンス学部	入学定員	240人	240人
志願者	605人			685人	546人	396人
合格者	430人			445人	428人	336人
入学者	214人			225人	189人	182人
志願倍率	252.08%			285.42%	227.50%	165.00%
入学定員充足率	89.17%			93.75%	78.75%	75.83%

出典：各大学ホームページに公開されている情報をもとに共愛学園前橋国際大学が作成

③ 新設組織において定員を充足できる根拠等

私立競合2大学(学部)のうち、立正大学データサイエンス学部は入学定員充足率を満たしていないことが確認できる。県別の志願・入学状況等多くのデータが非公開のため詳しい分析は困難であるが、埼玉県熊谷市という立地を考慮すると東京都内の大学との競合が考えられ、学生確保に至っていないのではないかと推測される。

主なターゲット地域である埼玉県内や、隣接県である群馬県、栃木県の高校生の確保を考えると、特に本学のターゲット地域となる埼玉県北部や栃木県南西部の高校生の交通の利便性は、JR各線と連結が良い駒形駅が徒歩圏内である本学が優位ではないかと考えられる。

学びの分野においても、本学はデータサイエンスやそのビジネスへの応用だけでなく、「食」や「ヘルスケア」といったより広い分野への応用も学ぶことが可能であり、高校生の学修の選択肢の幅が広いことも優位性があると考えられる。

私大の競合に限らず、県内競合2大学の定員充足状況を鑑みれば、県内または隣接県の高校生の進学を受け皿になり得え、定員の確保につなげることが可能であると考えられる。

④ 学生納付金等の金額設定の理由

前述の私立競合2大学(学部)の学費は以下の通りである。

学 費	文教大学 情報学部	立正大学 データサイエンス学部
入学金	280,000 円	288,000 円
授業料(1年分)	772,000 円※	778,000 円
授業料以外(1年分)	270,000 円	490,000 円
初年度学費計	1,322,000 円	1,556,000 円
4年間学費合計	4,520,000 円	5,360,000 円

※経年で12,000円/年増額

また、私立競合2大学(学部)以外の関東の私立大学において、本学と同系統の学部(情報・データサイエンス系など)を持つ理系15大学の学費を調査したところ、結果は以下の通りとなった。

学 費	金 額	備 考
入学金	246,000 円	
授業料(1年分)	1,211,000 円	4年総額 4,844,000 円
授業料以外(1年分)	204,000 円	4年総額 816,000 円
初年度学費計	1,661,000 円	
4年間学費合計	5,906,000 円	

このような状況を勘案し、本学の学費を以下のように設定予定としている。

学 費	金 額	備 考
入学金	260,000 円	既存学部と同額
授業料 (1 年分)	1,100,000 円	4 年総額 4,400,000 円
授業料以外 (1 年分)	300,000 円	4 年総額 1,200,000 円
初年度学費計	1,660,000 円	※諸経費除く
4 年間学費合計	5,860,000 円	※諸経費除く

### (3) 先行事例分析

該当なし

### (4) 学生確保に関するアンケート調査

本学が設置を予定しているデジタル共創学部の学生確保の見通しについて、さらに検証を深めるため、第三者機関である株式会社高等教育総合研究所に高校生の進学意向アンケートを依頼し実施を行った（資料 13）。

以下に実施の概要を示す。

調査目的	令和 8 年 (2026 年) 度に共愛学園前橋国際大学が設置構想中の「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」(入学定員 100 名) における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	令和 8 年 3 月に高校卒業予定である (令和 6 年度における) 高校 2 年生
調査地域	「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」の主たる学生募集エリアと想定される高等学校 60 校から調査の協力を得た。また、オープンキャンパスに来場した学生には個別で調査の協力を得た。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者の基本情報 (性別、居住地)</li> <li>・卒業後の志望進路</li> <li>・志望する大学等の設置者</li> <li>・興味のある学問分野</li> <li>・共愛学園前橋国際大学「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」特色への興味・関心</li> <li>・共愛学園前橋国際大学「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」への受験・入学意向</li> </ul>
調査時期	令和 6 年 10 月～12 月
調査方法	<p>紙方式・WEB 方式のいずれかでアンケート調査を実施。</p> <p>[紙方式]</p> <p>① 高校での実施依頼分については、各高校の希望に基づき、アンケート用紙・「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」リーフレットを必要部数送付。ホームルームで配付の上、その場で回答し回収いただいた。</p> <p>② オープンキャンパス実施分については、協力を承諾いただいた来場者に対し、個別にアンケート用紙・「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」リーフレットを配布し、その場で回答いただいた。</p> <p>[WEB 方式] (高校実施分のみ)</p> <p>担当教員のメールアドレスにアンケート調査サイト URL およびアクセス用 QR コードを送付。自校対象生徒のタブレット端末等に配信の上、原則その場で回答し送信するよう促していただいた。</p>
回収件数	有効回答数 8,511 件 (計 60 校)

続いて、受験・入学意向五重クロス集計結果を以下に示す。

高校卒業後の進路に「大学」、その上で志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「情報工学」「経営工学」「経営学」「商学」「地域創造」「食物学」「環境学」の複数またはいずれかを選択した上で、共愛学園前橋国際大学「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」に受験・入学意向を示した人数を確認した。

「大学」進学、かつ「私立」を選択し、興味のある学問分野として「情報工学」「経営工学」「経営学」「商学」「地域創造」「食物学」「環境学」の複数またはいずれかを選択する者は合計 1,048 人で、その上で同学部学科専攻を「第一志望として受験する」としたのは 31 人、「第二志望として受験する」54 人、「第三志望以降として受験する」157 人と合計すると 242 人であった。

なお「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は 25 人であった。「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で 181 人いた。

進路		学校種		学問分野		受験意向		入学意向	
大学	6,009	私立	3,436	情報工 学、経営 工学、経営 学・商 学、地域 創造、食 物学、環 境学	1,048	第一志望 として受 験する	31	入学する	25
								志望順位が 上位の他の 志望校が不 合格の場合 に入学する	3
						第二志望 として受 験する	54	入学する	15
								志望順位が 上位の他の 志望校が不 合格の場合 に入学する	38
						第三志望 以降とし て受験す る	157	入学する	6
								志望順位が 上位の他の 志望校が不 合格の場合 に入学する	143

この結果を受けて、デジタル共創学部への学生確保の見通しを分析すると、「第一志望として受験する」とした者のうち、本学へ「入学する」とした者は 25 人であった。

次に「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」としたうえで、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」とした者 181 人について分析をすすめる。この分析にあたり、入学見込み者を算出する根拠として、特定の入試種別における受験状況から根拠を算出することとする。まずは入試種別について、他大学との併願が可能な「学校推薦型選抜（公募制）」「一般選抜」「共通テスト利用型選抜」は、本学の志望度調査からも第二志望以下の志願者が主であることから、「学校推薦型選抜（公募制）」「一般選抜」「共通テスト利用型選抜」の3つの入試種別を用いる

こととした。次に、期間については、根拠の信頼性をできる限り損なわないよう、新学部入試実施前直近3年間（令和5（2023）年度から令和7（2025）年度）の入試種別ごとの数値を用いることとし、対象は、「経営の知識と、情報化社会で必要不可欠なICTスキルを生かして、企業・地域・社会の課題解決に取り組んでいくことのできる人材養成」を目的とした本学既設学部の1コースである「情報・経営コース」を、新設予定のデジタル共創学部と最も学びの類似性が高く、受験対象者と想定している層と近いと判断し選定している。

上記条件における「出願者」「合格者」「入学者」の3年間計の人数（図表3-4-1）から、入試種別の「出願者割合（出願者／出願者計）」を算出し、学生確保に関するアンケートにおいて、第二志望以降で受験を希望している181人に「出願者割合」を乗じて、入試種別の「第二志望以降受験希望数」を算出、さらに図表3-4-1から各入試種別の「出願者入学率（入学者／出願者）」を算出後、「第二志望以降受験希望数」と「出願者入学率」を乗じて入試種別ごとの「入学予測者数（アンケート回答者）」を算出している（図表3-4-2）。

図表 3-4-1：令和5-令和7年度 出願者・合格者・入学者状況（実員数）【情報・経営コース】

年度	入試種別	出願者	合格者	入学者
令和5	学校推薦型選抜（公募制）	9人	8人	6人
	一般選抜	53人	45人	29人
	共通テスト利用型選抜	43人	41人	21人
	小計	105人	94人	56人
令和6	学校推薦型選抜（公募制）	9人	8人	8人
	一般選抜	77人	61人	30人
	共通テスト利用型選抜	43人	42人	8人
	小計	129人	111人	46人
令和7	学校推薦型選抜（公募制）	8人	7人	6人
	一般選抜	61人	43人	23人
	共通テスト利用型選抜	44人	36人	14人
	小計	113人	86人	43人
3年間計	学校推薦型選抜（公募制）	26人	23人	20人
	一般選抜	191人	149人	82人
	共通テスト利用型選抜	130人	119人	43人
	計	347人	291人	145人

出典：共愛学園前橋国際大学にて作成

図表 3-4-2：図表 3-4-2 に基づくアンケート回答者（181人）の予測入学者数

入試種別	出願者割合 （出願者／出願者計）	第二志望以降受験希望数 （アンケート回答者）	出願者入学率 （入学者／出願者）	入学予測者数 （アンケート回答者）
学校推薦型選抜 （公募制）	7.5%	14人	76.9%	11人
一般選抜	55.0%	99人	42.9%	43人
共通テスト 利用型選抜	37.5%	68人	33.1%	23人
計	100%	181人		77人

結果、「第二志望として受験する」又は「第三志望以降として受験する」としたアンケート回答者 181 人の入学予測者は 77 人となった。最後に第一志望者 25 人と合わせて入学予測者総数は 102 人となり、本学において入学定員 100 人を充足できると判断する。

補足として、入試種別を 3 つに絞った根拠の妥当性検証のため、高校 2 年次の志望度【第一志望、第二志望以下、志望していなかった（進学を考えていなかった含）】を入試種別とともに調査を行った。高校 2 年次の志望度としたのは、学生確保に関するアンケート実施時に対象とした高校 2 年生と志望度合いを合わせ、より妥当性を高めるためである。本来であれば本学受験者全員への調査を行うべきところであるが、入学者以外への調査実施は困難であるため、対象者は本学入学者とし、前述の理由から「情報・経営コース」の現 1 年生（令和 7（2025）年度入学者：n=103）に絞って調査を実施している（図表 3-4-3）。

図表 3-4-3：令和 7 年度入学者の高校 2 年次における本学志望度調査【情報・経営コース】

入試種別	志望順位	入学者人数	種別内割合
総合型選抜	第一志望	1 人	12.5%
	第二志望以下	4 人	50.0%
	志望していなかった	3 人	37.5%
小計		8 人	100.0%
学校推薦型選抜（指定校制）	第一志望	12 人	24.0%
	第二志望以下	14 人	28.0%
	志望していなかった	24 人	48.0%
小計		50 人	100.0%
学校推薦型選抜（公募制）	第一志望	0 人	0.0%
	第二志望以下	5 人	83.3%
	志望していなかった	1 人	16.7%
小計		6 名	100.0%
一般選抜	第一志望	0 人	0.0%
	第二志望以下	12 人	52.2%
	志望していなかった	11 人	47.8%
小計		23 名	100.0%
共通テスト利用型選抜	第一志望	0 人	0.0%
	第二志望以下	6 人	42.9%
	志望していなかった	8 人	57.1%
小計		14 名	100.0%
その他	第一志望	1 人	50.0%
	第二志望以下	1 人	50.0%
	志望していなかった	0 人	0.0%
小計		2 人	100.0%
計	第一志望	14 人	13.6%
	第二志望以下	42 人	40.8%

	志望していなかった	47 人	45.6%
合計		103 名	100.0%

出典：共愛学園前橋国際大学在学生調査にて作成

図表 3-4-3 の結果から、「学校推薦型選抜（公募制）」「一般選抜」「共通テスト利用型選抜」の 3 つの入試種別は、高校 2 年次において本学を第一志望としていた者がいないことから、「第二志望として受験する」又は「第三志望以降として受験する」と回答した者への係数を算出する入試種別の選定根拠として妥当性があると判断する。

**【資料 13】【共愛学園前橋国際大学様】デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)設置構想に係る高校生アンケート報告書**

(5) 人材需要に関するアンケート調査等

本学部の育成する人材像についての需要の見通しを検証するため、第三者機関である株式会社高等教育総合研究所に人材需要アンケートを依頼し実施した（資料 14）。

以下に実施の概要を示す。

調査目的	令和 8 年（2026 年）度に共愛学園前橋国際大学が設置構想中の「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」(入学定員 100 名)における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	・過去 5 年間に共愛学園前橋国際大学卒業生の就職実績又は求人実績のある企業・団体 ・所在する群馬県の地方公共団体ならびに群馬経済同友会会員企業 等 [業種] デジタル技術を活用し、DX による生産性の向上、持続的な成長が求められる業種
調査地域	群馬県を中心とする関東近郊 1,040 件
調査内容	・回答対象先の基本情報（業種・所在地・従業員／職員規模） ・共愛学園前橋国際大学「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」卒業生の人材ニーズ ・共愛学園前橋国際大学「デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)」卒業生の採用意向
調査時期	令和 6 年 11 月～12 月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートおよびリーフレットを郵送し依頼することにより実施（紙方式・web 方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼）
回収件数	有効回答数 346 件（回収率 33.27%）

結果の概要は以下のとおりである（図表 2-1-1, 図表 2-1-2）。養成する人材の社会ニーズは非常に高く、卒業後の採用意向についても非常に高い意向であることがうかがえる結果となっている。

図表 2-1-：養成する人材の社会ニーズ

回答	数	割合
人材ニーズは高い・ある程度高い	313 事業所	90.5%
人材ニーズはない・あまりない。無回答	33 事業所	9.5%

計	346 事業所	100.0%
---	---------	--------

図表 2-1-2：卒業生の採用意向

回答	数	割合
採用したい	231 事業所	66.8%
採用しない・わからない・無回答	115 事業所	33.2%
計	346 事業所	100.0%

【資料 14】【共愛学園前橋国際大学様】デジタル共創学部デジタル共創学科(仮称)設置構想に係る人材需要アンケート報告書

#### 4. 新設組織の定員設定の理由

前述の競合校との分析や、アンケート結果の分析等を考慮しても、入学定員 100 名は問題なく妥当な設定といえる。さらに、DXハイスクール校とのコンソーシアム連携や、高校の女子生徒に向けた「情報・データサイエンスプログラム」の実施により、情報工学分野等へ群馬県内の生徒、特に女子生徒への関心を高めるなどの取り組みを行うことにより、女子志願者の数字を高めるなど、さらに定員確保を盤石なものにしていく。

## 新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	群馬県	2,944人	42.9%
2	埼玉県	607人	8.8%
3	栃木県	445人	6.5%
4	長野県	351人	5.1%
5	東京都	268人	3.9%
	全 体	6,863人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県等)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	関東	98.89%	97.43%	102.81%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	理・工学系	104.35%	101.88%	99.39%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。



1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人員	5人	14人	14人	14人	14人	12人	
	延べ人数	志願者数	39人	25人	26人	29人	42人	32人
		受験者数	38人	24人	25人	28人	42人	31人
		合格者数	7人	14人	17人	13人	37人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	39人	25人	26人	29人	42人	32人
		受験者数	38人	24人	25人	28人	42人	31人
		合格者数	7人	14人	17人	13人	37人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	7人	13人	17人	13人	37人	17人	
	学校推薦型選抜	募集人員	80人	110人	110人	110人	110人	104人
延べ人数		志願者数	191人	192人	241人	212人	207人	209人
		受験者数	188人	191人	240人	211人	207人	207人
		合格者数	150人	187人	225人	204人	204人	194人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	17人	22人	20人	15人	17人
実人数		志願者数	191人	192人	241人	212人	207人	209人
		受験者数	188人	191人	240人	211人	207人	207人
		合格者数	150人	187人	225人	204人	204人	194人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	17人	22人	20人	15人	17人
入学者数		137人	170人	203人	184人	189人	177人	
一般選抜		募集人員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
	延べ人数	志願者数	550人	338人	355人	284人	275人	360人
		受験者数	546人	330人	349人	279人	269人	355人
		合格者数	156人	195人	187人	197人	160人	179人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	91人	110人	123人	123人	97人	109人
	実人数	志願者数	550人	338人	355人	284人	275人	360人
		受験者数	546人	330人	349人	279人	269人	355人
		合格者数	156人	195人	187人	197人	160人	179人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	91人	110人	123人	123人	97人	109人
	入学者数	65人	85人	64人	74人	63人	70人	
	共通テスト利用入試	募集人員	65人	75人	75人	75人	75人	73人
延べ人数		志願者数	284人	269人	284人	212人	231人	256人
		受験者数	284人	268人	284人	212人	231人	256人
		合格者数	162人	205人	181人	180人	192人	184人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	122人	146人	151人	149人	160人	146人
実人数		志願者数	284人	269人	284人	212人	231人	256人
		受験者数	284人	268人	283人	212人	231人	256人
		合格者数	162人	205人	181人	180人	192人	184人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	122人	146人	151人	149人	160人	146人
入学者数		40人	59人	30人	31人	32人	38人	
その他の特別選抜		募集人員	15人	10人	10人	10人	10人	11人
	延べ人数	志願者数	65人	47人	40人	55人	44人	50人
		受験者数	65人	47人	39人	55人	43人	50人
		合格者数	23人	14人	14人	28人	17人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	8人	5人	21人	14人	13人
	実人数	志願者数	65人	47人	40人	55人	44人	50人
		受験者数	65人	47人	39人	55人	43人	50人
		合格者数	23人	14人	14人	28人	17人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	8人	5人	21人	14人	13人
	入学者数	7人	6人	9人	7人	3人	6人	
	合計	募集人員	255人	299人	299人	299人	299人	290人
延べ人数		志願者数	1129人	871人	946人	792人	799人	907人
		受験者数	1121人	860人	937人	785人	792人	899人
		合格者数	498人	615人	624人	622人	610人	594人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	242人	282人	301人	313人	286人	285人
実人数		志願者数	1129人	871人	946人	792人	799人	907人
		受験者数	1121人	860人	936人	785人	792人	899人
		合格者数	498人	615人	624人	622人	610人	594人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	242人	282人	301人	313人	286人	285人
入学者数		256人	333人	323人	309人	324人	309人	

2. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	255人	299人	299人	299人	299人	290人
入学定員充足率	1.00	1.11	1.08	1.03	1.08	1.06
歩留率	0.51	0.54	0.52	0.50	0.53	0.52

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称： 共愛学園前橋国際大学国際社会学部のオープンキャンパス

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	859人	856人	①取組概要 毎年5～6回程度、学生が主体的にオープンキャンパスを企画し、本学の良さや学びの特徴などを受験希望者へわかりやすく伝えているほか、当日の詳細な動きなども学生が運営を行い、来場者の高い受験率並びに入学者を維持している。
うち受験対象者数 (b)	479人	545人	
うち受験者数 (c)	359人	408人	R5年度開催実績 (R6年度入試対象) : 計6回 (6/3, 7/22, 8/18, 8/19, 8/26, 3/9) R4年度開催実績 (R5年度入試対象) : 計4回 (6/4, 8/19, 8/20, 3/11)
うち入学者数 (d)	206人	232人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者180人 (既存学部R6実績の約1/3) が来場すると仮定し、75%の135人が受験、43%が入学すると仮定すると77名の入学が見込まれる。(入学定員の77%)
(受験率 c/b)	74.9%	74.9%	
(入学率 d/b)	43.0%	42.6%	③「うち受験対象者数 (b)」と判断した基準 大学の接触者管理システムより該当する者の数を抽出している。

②募集を行った学科等名称及び取組の名称： 共愛学園前橋国際大学国際社会学部の大学案内配布状況

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	6271人	6132人	①取組概要 大学のホームページや外部業者のサイトにおいて資料請求フォームを設置し、資料の請求があった際にパンフレット等の資料を送付している。また、学内外で行われるイベント (オープンキャンパス、学外開催の進学相談会・ガイダンス) においてもパンフレットを配布し、本学の学びの特徴をアピールしている。
うち受験対象者数 (b)	6271人	6132人	
うち受験者数 (c)	443人	441人	R5年度配布実績 (R6年度入試対象) : 6,132人 R4年度配布実績 (R5年度入試対象) : 6,271人
うち入学者数 (d)	279人	284人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者2,050人 (既存学部R6実績の約1/3) に配布すると仮定し、75%の150人が受験、4.6%が入学すると仮定すると95名の入学が見込まれる。(入学定員の95%)
(受験率 c/b)	7.1%	7.2%	
(入学率 d/b)	4.4%	4.6%	③「うち受験対象者数 (b)」と判断した基準 大学の接触者管理システムより該当する者の数を抽出している。

③募集を行った学科等名称及び取組の名称： 共愛学園前橋国際大学国際社会学部の高校訪問

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	-人	-人	①取組概要 本学の募集担当職員が県内、隣接県、東北地方等の高校を中心に訪問し、本学の説明を行っている。特に進路指導教員に対して、大学案内や受験ガイド等の資料の配布、当該高校からの入学生の近況報告、前年度の入試との変更点などの紹介のほか、受験希望者の情報などを収集するなどの活動を行っている。
うち受験対象者数 (b)	792人	799人	
うち受験者数 (c)	756人	764人	R5年度訪問実績 (R6年度入試対象) : 高校訪問数 (県内及び隣接4県) 述べ約190校 R4年度訪問実績 (R5年度入試対象) : 高校訪問数 (県内及び隣接4県) 述べ約210校
うち入学者数 (d)	289人	313人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者260人 (既存学部R6実績の約1/3) に配布すると仮定し、96%の250人が受験、40%が入学すると仮定すると100名の入学が見込まれる。(入学定員の100%)
(受験率 c/b)	95.5%	95.6%	
(入学率 d/b)	36.5%	39.2%	③「うち受験対象者数 (b)」と判断した基準 本学に志願したもの。

④募集を行った学科等名称及び取組の名称： 共愛学園前橋国際大学国際社会学部の進学相談会・ガイダンス参加

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	759人	927人	①取組概要 群馬県内で行われる進学相談会・ガイダンスや、進学実績のある高校が参加する県外のガイダンス等を中心に参加している。特に近年は県外で開催される相談会・ガイダンスの参加回数を増やしており、より多くの高校生と接触を図り、対象者に直接大学の周知・アピールを行っている。
うち受験対象者数 (b)	508人	410人	
うち受験者数 (c)	132人	127人	R5年度実績 (R6年度入試対象) : 参加回数 延べ約140回 (接触者数約7名/回) R4年度実績 (R5年度入試対象) : 参加回数 延べ約120回 (接触者数約6名/回)
うち入学者数 (d)	127人	118人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者140人 (既存学部R6実績の約1/3) に接触すると仮定し、31%の43人が受験、28.8%が入学すると仮定すると40名の入学が見込まれる。(入学定員の40%)
(受験率 c/b)	26.0%	31.0%	
(入学率 d/b)	25.0%	28.8%	③「うち受験対象者数 (b)」と判断した基準 参加ガイダンスでの接触者総数のうち、3年生接触者の数。

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称： 共愛学園前橋国際大学国際社会学部のSNS発信状況

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	1740人	2730人	①取組概要 Instagramは、高校生を中心に広く本学の情報を周知するため、大学開校日には1回以上の投稿を行っている。X (エックス) は大学のニュース等の発信、LINEは、オープンキャンパスの予約窓口の機能のほか、月2～3回メッセージを送信し、登録者にピンポイントで周知を行っている。
うち受験対象者数 (b)	591人	641人	
うち受験者数 (c)	203人	227人	R5年度実績 (R6年度入試対象) : Instagram投稿数 約290 R5年度実績 (R6年度入試対象) : X (エックス) 投稿数 約60 R5年度実績 (R6年度入試対象) : LINE投稿数 約40
うち入学者数 (d)	171人	184人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者210人 (既存学部R6実績の約1/3) に接触すると仮定し、35.4%の74人が受験、28.7%が入学すると仮定すると60名の入学が見込まれる。(入学定員の60%)
(受験率 c/b)	34.3%	35.4%	
(入学率 d/b)	28.9%	28.7%	③「うち受験対象者数 (b)」と判断した基準 LINEの年度純増数のうち、オープンキャンパス・相談会・ガイダンス参加者高校1・2年生及び保護者を除いた数